

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)ささえ	代表者	笠嶋 信夫	法人・事業所の特徴	一人一人の状況に合わせて、柔軟なサービスを提供しています。 突然の泊りや緊急受け入れも対応しています。 いつもの、顔なじみの、慣れた職員が対応しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ささえ	管理者	鮎川律子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	オン・オフどちらも活用して、スタッフ全体のレベルを上げたい。 質問や意見を遠慮なく言い合えるような雰囲気を作る。	明るい雰囲気、挨拶も出来ている。 職員が一丸となり取り組んでいる。	コロナ感染症の対応が大きく変化した。今後の活動に期待します。 引き続き感染症対策の継続を行う。	コロナ感染対策を継続しつつ、自粛や中止をしていた活動を再開していく。 活動を通し、利用者様の笑顔を引き出し、職員もやりがいを分けて頂く。
B. 事業所のしつらえ・環境	認知症を理解し、安全で安心出来る居場所をつくる。 草花を置き、世話をしてもらいなど、役割や楽しみを持って過ごしていただく。	施設内は臭い等なく、清潔で整頓されている。 狭いスペースを上手く使っていると思う。	利用者の作品が展示され、明るい雰囲気。 季節ごとに設えが変わっている。 花や観葉植物が飾られていたが、利用者の役割になっていない	施設内の清潔と整理整頓に配慮継続。 利用者が自発的に世話出来るように、草花を置き、家庭的で明るい雰囲気づくりを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	利用者を連れて散歩や外気浴に出たときは、こちらから元気に挨拶を知って、コミュニケーションをとる。 急な訪問や電話も担当者につなげ丁寧な対応をする。	明るい挨拶が出来ている コロナ禍、利用者を連れて商業施設等への外出が憚れた。	重介護者が増え自立度の高い利用者への関わりがうすくなる傾向がある 寸暇を逃さず、外出に連れ出すようにしている	コロナ感染症対応を行い、町内会の夏祭りや盆踊り等、地域のイベントに参加したい。 外気浴や散歩、買い物に多く出る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ情勢に合わせて、その時に出来る活動を検討、見直しを繰り返して、今出来る活動を提供する。	コロナ禍の為、思うような活動は出来なかったが、シャボン玉等、工夫をして楽しめる活動をしている。	ご家族様の協力を得て地域とのつながりを継続する。 行事やレクリエーションで利用者様が喜んでもらえると、職員の意欲が湧く。	ご家族の協力を引き出し、協力して地域の中の活動を継続する。 コロナ状況にもよるが、去年出来ていた活動を継続、持続する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>コロナ状況に合わせ、安心して参加してもらえるように、今後も慎重に検討を繰り返す。 入居や事業所利用開始時に具体的に運営推進会議の説明を行い参加を促す。</p>	<p>運営推進会議が今年になってから行えるようになってきている。 概ね説明や検討が出来ていて、事業所内の様子が分かる。 地域の状況も共有出来、活発な意見交換が出来ている。</p>	<p>ご家族様に出席して頂き、意見を聞きたい。 地域での取り組みを共同で実現させたい。</p>	<p>ご家族様の出席をお願いする。 事業所のフリースペースを開放し、地域の方に使って頂く。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>年2回の訓練うち、1回を地震避難訓練とする。</p>	<p>訓練の計画や準備、周知が出来ていると思う</p>	<p>利用者も協力的で速やかに避難場所に移動が出来ていた</p>	<p>火災と地震、日中と夜間の設定を変え訓練を行う 出火場所や避難経路、集合場所の設定を変え訓練する</p>